

おのきた

# 尾北校長室から

第4号

## まずは自分から ～ 挨拶のススメ

学校を再開して2週間が過ぎた。最近思うことだが、新型コロナ感染防止の観点から“Social Distance”という考え方が浸透するに伴い、“Face to face”の場面が少なくなり、人間関係が希薄になるのではないかと心配している。On lineでのやりとりが可能であるがゆえに、**逆にFace to faceの希少価値と重要性**は増すものであることを指摘しておきたい。21世紀は「コミュニケーションの世紀」と言われて久しい。On lineかFace to faceかはさておき、コロナ禍の影響で変化があるかもしれないが、ここ10年以上企業を対象としたある調査では、採用を行う際に重視する項目として「コミュニケーション能力」が連続してトップとなっている。

このコミュニケーションに関しては、「**メラビアンの法則**」というものがある。それは、次の3つの要素が人と人とのコミュニケーションにどれくらい影響を与えているかを調べ、その法則を明らかにしたものである。3つの要素とは、①**Verbal**：言葉そのものの「意味」、②**Vocal**：声などの「話し方」、③**Visual**：表情などの「見た目」、である。このうちで皆さんは、どれが一番影響を与えていると思うだろうか？ 私は、①言葉の「意味」だと思っていた。



この法則によると、①言葉の「意味」は7%、②「話し方」は38%、そして言葉には直接は関係のない③「表情やしぐさ」などが55%、ということである。例をあげてみる。誰かに声をかけられて、不運にもその声が聞こえなかったために素知らぬ顔で通り過ぎてしまった場合、コミュニケーションは「ゼロ（不成立）」となるのだろうか？ そうではなく、相手とは、③の「見た目」に無視されたという「**マイナス55%**」の**コミュニケーションが成立**していると考えなくてはならないのではないか。何か考え事に集中していて声が耳に入らなかったり、遠くて聞き取りにくかったりしたとしても、相手は無視されたとネガティブに受けとめる可能性が高いということである。

実は、こうした不運が自分に起こる確率を大きく下げることができる良い方法がある。それは、自分から先に声をかけるようにし、「**まずは自分から**」という**姿勢で行動を起こす**という習慣をもつことである。少し物騒だが、「挨拶は銃だ」と表現した人もいる。先に行動を起こした方が勝つという意味である。この「自分から関係を結ぶ力」は一層重要性を増している。広島県の高校入試改革は現中1生の時から実施されるが、中学生につけておいてほしい力として、「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が挙げられている。表現する力については、冒頭の就職試験ではもっと前からである。

自分は口下手だという人もいると思う。その人も、コミュニケーションの扉は、「自分の内側からカギをかけている」ということはないだろうか？ 今からその扉を開く練習をしておこう。話が「**できない**」なら**能力の問題**だが、**苦手で「しない」のなら、それは意欲の問題**である。コミュニケーションは、多くは意欲の問題で、その気になればできることなのではないか。皆さんには、**いつでも誰にでも、明るく先に挨拶ができる人**であってほしいと思う。何事も「**まずは自分から！**」という姿勢を期待したい。さあ、せっかくの高校時代、心の部屋のカギは自分から外し、**思い切ってもっと扉を開いて**みよう。扉の向こうの新しい風景は、必ずや新しい風を運び込んでくれるはずである。

**The Early bird catches the worm.** 「早起きは**三文**の得」（早く起きた鳥は、餌の虫を先に手に入れることができる。）挨拶も同じ、まずは自分から。